

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1274200151		
法人名	医療法人社団 昭桜会		
事業所名	グループホーム サクラピア		
所在地	〒270-11421 千葉県白井市白井436-2		
自己評価作成日	平成27年1月30日	評価結果市町村受理日	平成27年2月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaitgokensaku.jp/127/index.php">http://www.kaitgokensaku.jp/127/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2丁目10番15号		
訪問調査日	平成27年2月6日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

グループホームサクラピアは、個室ではプライベートな時間を過ごし、共有スペースのリビングでは、他者とのコミュニケーションをとる場所として、利用者様がリラックスして談話や食事、お茶の時間を楽しんでいます。また、母体がクリニックであることから、利用者様の健康管理、体調変化への対応に関しては、利用者様およびご家族様には安心していただいております。利用者様と職員との関係も家族のように一体となり、どんなことでも話せる仲になっています。また、ご家族とも信頼関係を築けるように努めております。昨年施設内をリフォームし、居室・玄関・リビング・トイレ・浴室をリニューアル、階段には昇降機を設置しました。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

目標は「利用者が健康を維持して楽しく過ごす」として様々な支援を行なっている。ミュージック体操による血行促進、スプーン体操で体を動かす運動、太極拳、レクリエーションでみんなで作ったかるた取りなど楽しみながら体力の向上につながるよう取り組んでいる。健康管理面では、詳細に日々の健康チェックを記録して、法人のクリニックによる健康診断を実施している他、体調が変化した際には早目の診察を受けて健康に留意している。また、設備面では今年度大幅な改修工事を行い、居室や浴室の改装、2階への昇降機の新設などの整備により、利用者の快適な生活環境が維持されている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	もてなし・快適さ・楽しさを理念とし、これを職員は念頭に置き声を掛け合って取り組んでいる。	今年度は健康管理に取り組み、利用者が楽しめるミュージック体操、スプーン体操、太極拳など取り入れて体力の維持に努めている。また、医師と連携を強化して体調により早めに診察をするようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	日頃から、地域の方との交流があり、気軽に声を掛け合ったりしている。	地域の商店で買い物の帰りに送って貰ったり、買いすぎにならないように注意してくれるなど緊密な関係づくりが築かれている。地域のコミュニティセンターの催しに参加して演芸を見たり食事をして交流を重ねている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの方々との交流を図り、地域の方にホームの特性をご理解いただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今後、運営推進会議を定期的で開催するよう取り組んでいく。	今年度は実施していない。	運営推進会議は家族、地域の代表、行政が参加して話し合う重要な場である。施設への理解を深めるとともに、意見を聞いて信頼関係を築いていくよう期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	白井市の担当者との連絡を取り合い、改善点等を話し合っている。	地域の「多職種合同研究会」に参加して医師と介護が連携して、事業所から介護相談員派遣事業など話し合っている。また、「見守りネットワーク」では、体操などに参加を申し込むなど、地域と連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止研修に参加し、日頃から職員間で取り組んでいる。	止むを得ず手袋を使用しているが、家族の同意を得て実施しており、定期的に見直している。職員にミーティングで施設長が支援の方法を指導している。また、言葉遣いで、「ちゃん」づけなど改善するようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待廃止研修に参加し、日頃から取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今のところ権利擁護等の相談等はないが、制度の理解に努めていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	御家族に説明をし、疑問点に関してはその都度説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時などにおいて、ご家族の意見、要望を把握し、運営に取り入れるように努めている。	家族とは訪問時に話し合っている。家族から「果物を食べたことがない」などの話があった際には、食事の内容を説明して理解を得ている。転倒防止のためにスロープをつけて家族が安心するように努めている。	行事は年間計画により実施されて利用者が楽しく過ごしている様子が記録されている。今後家族の参加が得られる行事を企画して話し合う機会を設けるよう期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員合同会議にて、職員との意見交換の場を、設けている。	利用者の体力維持の支援のためにレクリエーションをしているが、職員の提案で二つのフロアーを一緒に行うことで競争する意欲が生まれるなど、適切な対応に活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃から各職員と接する機会を設けるようにし、状況を把握し、意見要望を受け入れるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修がある場合、積極的に参加していくように促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修を通して、外部との交流に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話をよく聞き、安心して頂けるように対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からのご相談、ご要望を取り入れるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面接時に、利用者及びご家族の状況を把握し、話し合いの場を持っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と良く会話をし、安心して何でも話せる雰囲気を作れるように心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と普段から連絡を取り合い、相談できるように心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事前に得た本人の情報を元に、馴染みの事柄を会話の中に取り入れ、対応している。	友達や親戚の人が訪れて話し合う機会を設けている。また手紙を貰うことや電話を掛ける場合は家族の同意を得ている。出張美容室が定期的に来て利用者の要望に応えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや談話を通じ、互いに良い関係を		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続が必要な場合は、出来る範囲で協力していく。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望をよく聞き、本人本意になるように検討している。	「包括的自立支援プログラム」により、介護状況、生活環境、社会活動参加について詳細に確認している。「ケアチェック表」では食事の摂取状況、入浴・洗面などの自立度について把握し最適な支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントをしっかりと取って、介護に活かせるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の業務連絡にて、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスにおいて状況の把握をし、改善点があればその後のプランにつなげていく。	「食事は声を掛けて介助する」計画について、職員の意見で時間をかけても食べて貰うようにしている。カテーテル使用の利用者には回数を増やして補給するようしており、職員と話し合って改善をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別介護日誌を参考に介護計画の見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の希望に沿うように、状況に応じた対応が出来るように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署の協力の元、消防訓練等を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医には状況を把握して頂くよう情報を提供している。	利用者の殆どが入居時に提携医を主治医としている。週1回主治医の往診があり、何か異常がみられた時は、すぐ診療所への受診となる。結果は申し送りで職員共有を図っている。また歯科診療が必要な時は訪問歯科が即受診できる	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体であるクリニックにて相談・対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際に職員が医師及びご家族と相談をし、退院へ向けた計画をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族、医師、職員で話し合いをし、ご家族の意向を尊重し、対応するようにしている。	契約時に重度化した時の対応について、利用者・家族の意向、主治医との連携について話し合いをして同意を得ている。利用者の病状が悪化した時、その都度、話し合いを持ち、入院か事業所で継続かの相談をしている。今年度一人の看取りをした。	現在「看取りガイドブック」を作成し、最期までその人らしさを支援できる体制を整える努力をしているが、同時に看取りをした職員のメンタルケアについての取組も期待している。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	母体であるクリニックに即連絡をし、常時医師の指示を受けることができる体制を整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災受信機・火災通報装置・スプリンクラーを設置している。また消防署の協力のもと火災避難訓練を実施している。	今年度、多数の消防署員・複数の消防車の協力を得て、夜間想定災害時の避難訓練をした。消防署員を利用者に仮定して2階から1階への搬送を実施した。また同時にAEDの操作方法の講習を実施した。	消防署指導の避難訓練の経験をふまえて今後職員だけで具体的に災害時にどこまで出来るか、また近隣の人の協力体制をどう構築するかについての取組を期待している。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを守り、本人を尊重して対応できるように努めている。	利用者を年長者として敬い一人ひとりの個性、その時々のお気持ちを考慮して、その人に合った言葉遣いを大切にしている。常に利用者の言葉に耳を傾け、丁寧に聞き見守ることに注意を払い職員相互に日々確認しあっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に意思決定させ、より良く生活できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員主体の業務化ではなく、利用者本位の生活リズムになるように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者本人の希望通りにしていただいている。党ホームで希望する方は出張美容を利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	残存機能を維持して頂くように、出来ることはしていただく。	食事は業者の弁当を利用しているがキザミ・トロミ食等、利用者に合わせて提供している。利用者によっては2時間近くの食事時間に対応し、他所では食べなかった食事を自力で普通食に改善した例もある。また行事食・外食もある	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事はカロリー計算され、栄養バランスの良い献立になっている。水分補給も個々に合わせて定期的に行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内をチェックし歯磨き、義歯洗浄剤等に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄状況を把握し、必要があれば定期的にトイレ誘導をし、失敗がないように努めている。	排泄チェック表で水分摂取量・尿量を把握し、時間を選んでトイレ誘導している。またソワソワ・モジモジ・急に立つ等個々の仕草に注意を払い声掛けしている。テープ止めがリハパンに、リハパンがパットだけに改善した利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維がバランスよく取れる食事になっている。また、適度な運動を行うようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的な入浴日は設けているが、本人の希望に応えるように対応している。	入浴前に水分摂取量・バイタルチェックで体調を確認し、基本的には週2回入浴している。希望して週4回入浴する利用者もいる。入浴しない日には全員足浴を実施している。また入浴を嫌がる方には日にちの変更等対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者本人の意向に沿えるように対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	当法人のクリニックの指示を仰ぎ、職員全員で確認できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションには積極的に参加していただけるようにし、生活にリズムをつけるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	洗濯や散歩など、戸外に出る機会を作っている。	天気の良い日には近くの商店に出かけ、椅子に腰かけて会話を楽しんだり日用品の買物をしたりする。また車でスーパーに出かけ買物を楽しんだり、花見、コミュニティセンターの行事に参加したり、利用者が出来る範囲での外出支援をしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはお金の管理はホームにて行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状をご家族へ送るようにしていく。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な音や光は特にない。共用の空間には、花や植物があり季節感を出している。落ち着いて過ごせるようにしている。	リフォームされたばかりのリビングは広くて清潔である。共用の空間は利用者・職員で作成した、ひまわり・朝顔・金魚等の折り紙・和紙製のいろいろな額が飾られている。利用者手作りの独自のイロハカルタを皆で楽しみ競い合っていて、居心地良く過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはテーブルの他にソファを置き、自由に利用できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだものを自由に持ち込んでいただき、安心できる環境を作っていただいている。	利用者は入居前の慣れ親しんだ目見まし時計・本・孫が作った壁掛け・家族写真等持ち込んでいる。或いは家族が持参した鉢植えの花に水やりをしている。部屋はリモコン管理されているが、職員が定期的に温・湿度を確認・調整している	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人が出来るだけ安全で自由に行動できるように、サポートしている。		